

1

市の財政状況を分かりやすく
平成26年度の財務書類を公表

Financial Report

市の財政状況について、一年間の現金収支に年度末の資産や負債の状況などを加えて、企業の決算に準じた形で公表しています。普通会計の財務書類4表を用いて説明します。

▼財政課 ☎27局8601

貸借対照表(H27.3.31現在)

左側(資産の部)には市が所有する資産の種類と金額を、右側(負債の部・純資産の部)はその資産を取得した時の財源の出所を示しています。



<p>■ 資産の部</p> <p>2,380億円 (前年度比△15億円)</p> <p>流動資産 現金・預金など 37億円 (前年度比△1億円)</p> <p>基金・出資金など 174億円 (前年度比+34億円)</p> <p>公共資産 道路や施設など 2,169億円 (前年度比△48億円)</p>	<p>■ 負債の部</p> <p>市債など将来世代の負担額 326億円 (前年度比△30億円)</p> <p>■ 純資産の部</p> <p>市税など今までの世代の負担額 2,054億円 (前年度比+15億円)</p>
---	--

①平成25年度末 純資産残高	2,039 億円
②1年間の変動	15 億円
内 ③純経常行政コスト	△ 224 億円
内 ④税金・国庫支出金など	289 億円
内 ⑤インフラ資産の減価償却費・資産評価差額など	△ 50 億円
⑥平成26年度末 純資産残高 (①+②)	2,054 億円

貸借対照表の「純資産の部」の一年間の変動を示しています。

純資産変動計算書 (H26.4.1~H27.3.31)

①経常行政コスト	237 億円
内 人にかかるコスト 人件費など	56 億円
内 物にかかるコスト 消耗品・減価償却費など	92 億円
内 移転支的コスト 社会保障費・補助金など	86 億円
内 その他のコスト 支払い利息など	3 億円
②経常収益(使用料・分担金など)	13 億円
③純経常行政コスト(①-②)	224 億円

行政サービスの提供にかかった消費的な支出の内訳を示しています。

行政コスト計算書 (H26.4.1~H27.3.31)

分析

財務書類から分かること (前年度比)

①純資産比率86.3% (+1.2%)
総資産のうち負債を除いた純資産の割合です。税金の増加などにより、前年度よりも上昇しました。

②1人当たり市債残高 36.0万円 (△3.9万円)
返済が進み、借入額も減少したため、市債残高は前年度よりも減少しました。

③平成25年度末 資金残高	27 億円
④1年間の変動	△ 6 億円
内 経常的収支 市税や物件費など	90 億円
内 資本的収支 建設費・基金繰入金など	△ 63 億円
内 財務的収支 借入金・償還金など	△ 33 億円
⑤平成26年度末 資金残高 (③+④)	21 億円

現金の流れを示し、どのような活動に資金を使用したかを表しています。

資金収支計算書 (H26.4.1~H27.3.31)